

2021年9月13日

あおぞら投信株式会社

「百万ドル 夜景が霞む 足音に

内外の人 悩める香港」

自由で寛容な社会の国際都市である香港が大きく変わってきています。香港が英国から1997年に返還されてからの50年間は、経済では資本主義を実現し、香港特別行政区基本法(憲法に相当)に基づき「言論・報道・出版の自由」「集会の自由」などの思想を認める「高度な自治」を行い、かつ国際組織への単独参加や異なる通貨(香港ドル)が存在する『一国二制度』が香港人の誇りを保ってきたのです。それが、返還から23年を経た昨年(2020年)に、中国の全国人民代表大会(全人代)の常務委員会(全人代閉会中に立法権を代行)が制定、施行した「香港国家安全維持法」(国安法)が香港の『一国二制度』を骨抜きにすると国際的にも注目されました。そしてコロナの影響でデモ活動も困難となる中、香港の空気は変化してきているのです。

国安法により、国の分裂や政権の転覆、外国勢力と結託して国家の安全に危害を与える行為などを取締りの対象としてきて、100人以上の逮捕者が出ています。民主化を求めた学生や市民が犠牲になった1989年の天安門事件の責任追及と追悼を一貫して続けてきた、香港市民愛国民主運動支援連合会(支連会)も存亡の危機を迎えており、先月からは記念博物館の展示をオンラインで開始するなどの手段を講じています。現在の香港の状況はコロナの影響はコントロールされているものの、レストランのテーブルでは2人から4人の制限が課せられており、人が集まるのが難しい管理状態とのことです。返還から50年後となる2047年までの猶予があると思っていた英国と世界の思惑は、すべてを前倒しに進める中国習近平路線によって脆くも崩れています。世界の中での考え方の違い(ギャップ)を繋ぐ自由の地である香港の存在が失われていくことで、ギャップを埋める機会に変化が生じるのでしょうか。ここには日本の役割に関して大きな影響があるのだと考えます。

※上記は筆者の見解であり、当社の統一された見解ではありません。

柳谷俊郎

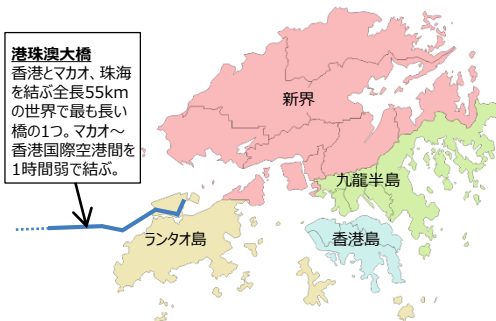
香港について

～歴史～

年	できごと
1839	アヘン戦争
1841	英国軍が香港島を占領
1842	南京条約で香港島は英国に譲渡
1860	アロ-戦争終結
	北京条約で九龍半島も英国に割譲
1865	英国資本の香港上海銀行が創設
	国際貿易の中心地に
1898	英国が新界エリアを99年間租借
	香港島・九龍半島・新界が英国植民地に
	19世紀末から20世紀初頭にかけて、自由貿易港として大きく発展を遂げアジアにおける一大金融センターとなった
1935	香港ドルが法定通貨に
1941	日本軍による占領
1945	日本の敗戦で再び英国の統治下に
	20世紀中頃、人口が急激に増加し、中継貿易港から加工貿易都市へ
	国民党・共産党内戦を避けて難民が増加
	上海の繊維工場などが香港に移転
1970年代	国際金融センターとして発展
1984	中英共同声明に調印(12月14日)
1990	香港基本法制定(4月4日)

年	できごと
1997	香港の一括返還、一国二制度スタート
	返還後、50年間の「高度な自治」が保証される
2008	北京五輪の馬術競技を開催
2014	雨伞運動(学生・市民の民主化運動)
2018	港珠澳大橋開通(10月24日)
2019	民主派の大規模デモ
2020	中国政府が「国家安全維持法」を施行(7月1日)

～地図～



～夜景～



～基本情報～

面積	1,110km ² (東京都の約半分)
人口	約747万人(2020年)
言語	広東語、英語、中国語(マンダリン)他

出所：各種報道を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：http://www.aozora-im.co.jp/